

# よねさとづくり通信

No.191

よねさとづくり協議会  
令和8年1月1日発行



## 謹んで新春のお慶びを申し上げます

昭和100年でもあった令和7年も年が明けて、新しい年を迎えました。昭和の正月風景の一つに年賀状がありますが、SNSの普及に加え、郵便料金値上げもあり、年賀状じまいする人が増えているようです。一方で、年賀状を復活する人も出てきていると話題になっていました。年に1度のはがきのやりとりで近況を伝え合い、つながりを確認する。手軽なSNSだけで済ますのではなく、相手との関係に応じて様々なつながり方があっていいのではと感じています。

地域でもこれまでのやり方にとらわれず、いろいろなつながりをつくり、それを活かした仲間づくり、よねさとづくりを進めていきたいものです。横（隣近所）のつながり、縦（異世代）のつながり、そして斜め（地区外）のつながりを活かし、今年も、そしてこれからも、住んでよかった、住みたいよねさとをめざしてみんなで取り組んでいきましょう。

今年1年が皆様にとって良い年でありますように。

令和8年1月

米里地区自治会・よねさとづくり協議会 会長 福田忠司

## 1年間を締めくくり

12月13日に開催された区長部会決算総会、それに続く自治会・よねさとづくり協議会全体会では、令和7年中の活動を振り返り、令和8年度に向けた方針について協議されました。その中で、納涼祭や米里まつりについては概ね日程について変更はありませんが、自治会組織の見直しが進んでいることもあり、4月以降の行事日程等については、引き続き検討され、3月の自治会委員総会で決定される予定です。

最後に、町区長の多くは1年ごとに交代されていることから、業務引継ぎの徹底として、各町区や組織において文書等により確認して行っていただくとともに、これまで行われていたことに加え、1年間の経験を踏まえて課題や見直しを要することなどを伝えていただきたいと要請されました。

任期を終えられた区長、町内会長の皆様、  
1年間お世話になりました。  
今後ともご協力よろしくお願ひします。



生活道路の除雪は、住民の皆さんの協力が必要です。

おねがいします



## 町内会だより ~中大路~

今回は中大路の『だるま踊り』についてご紹介いたします。

由来には諸説あります。大正末期頃に、新しい娯楽を作ろうと地区の住民が発案したという説。昭和初期に運動会で行われていた「だるま送り」という競技の大人の踊りを取り入れたという説。昭和30（1955）年頃まで行われており、戦前には因幡の傘踊りと競って踊られていたとも言われています。



その後、一時期踊りは中断されましたが、昭和55（1980）年頃に地域おこしの一環として地区の青年団によって再び始められました。この青年団は自然に消滅しましたが、代わりに保存会が結成され、現在まで踊りの保存・継承に努めています。

現在は、倉田八幡宮の秋祭りで披露されています。もともと青年相撲が奉納されていましたが、相撲を取る人がいなくなったため、祭りを盛り上げるために氏子の皆さんによってだるま踊りが発案されたという背景があります。

だるま踊りの正しい見方は、観客の皆さんが楽しく手拍子をすることで、だるまさんが元気に踊ってくれること。それを見て皆が笑顔になることが一番の幸せであり、だるまさんの喜びであるとされています。

（令和7年 中大路区長 谷澤和久）

## 防災に取り組んだ1日

### ～防災初動訓練と防災DAYキャンプ～

11月22日午前、各町区長と自主防災会役員を対象に、地震発生を想定した初動訓練を実施しました。公民館事務室を対策本部とし、LINEや電話を通じて被害状況の把握と情報伝達を各町区段階でもどのように誰が行うのか、確認してもらい、それぞれのマニュアルを点検し充実してもらうためです。

訓練後、町区長には公民館に集合してもらい、訓練結果の検証を行いましたが、取り組みに格差があり、他の町区の状況も参考にして町区長を中心とした体制づくりを考えもらうこととしました。



情報収集・伝達（公民館に本部設置）



訓練のふりかえり

米里地区全体の把握・伝達、要配慮者の把握・対応など連携強化につながる訓練でした。各町内会はまだ体制が充実したものでなく、これから考えていく段階を把握確認できました。災害発生した場合に高齢者や障がいのある人などが被害を受けやすく自力で避難が困難な「避難行動要支援者」に対する避難支援の体制づくりを進めることが急務です。自分の存在を周りの方に知ってもらう、お互いが知ることが大切です。

日頃からのつながりづくり・支え合いを考え、いきいき暮らし続けることができる米里地区を目指して考えていきましょう。



毛布で担架づくり

同日午後、小学校児童・保護者を対象に、青少年育成協議会・小学校教育後援会の協力で地域の人と楽しく防災を学ぶ体験型防災学習を実施しました。

炊き出し訓練で始まりましたが、環境大学の学生も加わり和やかに豚汁調理をし、輪になつて食べました。食事後に、自衛隊員2名を招き、毛布や着衣を使った簡単な担架づくりやロープの結び方を楽しみながら学びました。グループになって笑いの中で競い合ったり、目につくることのない自衛隊グッズをゲットして喜んでいましたが、この体験を通して、防災知識を学び、さらなる防災意識を身につける機会となりました。

（自主防災会連絡協議会 会長 大倉 健）



ロープの結び方を実践